

旧小樽商工会議所

1933 年、アールデコ様式で小樽商工会議所の旧事務所が建てられました。鉄筋コンクリート造り 3 階建ての建物の正面には、その黄金色のために珍重される石川県小松から取り寄せた千歳石に彫刻が施されたものが並んでいます。また、柱廊のある入り口は、土佐（現在の四国高知県）から取り寄せた白い大理石で覆われ、模様のついた銅で縁取られています。細部の金属や加工の質が、当時の小樽の経済力を反映しています。現在、この建物はホテルの一部になっています。

19 世紀の終わりに小樽を経由した貿易取引高が増加すると、地元の商人や実業家は、自分たちの権益を表そうと、1895 年に商工会議所を設立しました。1897 年、彼らは魁陽亭に 200 人以上の招待客を招いて祝宴を開き、この新しい協会を祝いました。商工会議所の会員は、商業建物に課される税金、鉄道路線の移転、道路や航路の新設、ロシアや中国との貿易の自由化などの問題について、地元自治体や日本政府に嘆願しました。彼らはまた、小樽への新たな学校や金融機関の誘致にも取り組みました。

小樽商工会議所は 2009 年にもっと近代的な事務所に移るまでこの建物を使用していました。その後、この建物は OMO5 ホテルに売却されレストランやラウンジに改修されましたが、元々あった建具や備え付け家具のいくつかは現在も残っています。